

News Letter

■2011年11月17日発行 ■編集・発行／三重大学高等教育創造開発センター

高等教育創造開発センターでは昨年度より、本学のPBL教育の広がり向上のため、「PBL教育支援プログラム」として、授業科目でPBLを導入する教員に、教材開発費・授業開発費を支援する事業を行っています。

昨年度は7件が採択されました。本号から、採択課題の成果報告をシリーズにて掲載します。第1弾は教育学部、岡野昇先生の「体育教材研究」におけるPBL教育の実践報告です。

2011年度開講「PBL教育支援プログラム」成果報告(1)

「学びの履歴カード」と「授業通信」を活用したPBL教育の展開

導入した科目の概要及び学生の到達目標

対象授業は、2010年度教育学部で開講された専門教育科目の「体育教材研究」である。授業の目的は、私たちがいつの間にか、そういうものだと思いついてきた思考の枠組みをくずしながら、小学校体育のあり方について探究することである。学生の到達目標は「対話的实践に基づく自己形成」と「小学校体育の授業を行うことへの自覚と責任」であり、評価の観点は「問題把握の深さ」と「授業を通じた自己の脱構築性」である。全学習内容(テーマ)は、次の通りである。

1. 体育観への気づき—教員採用試験問題
2. 自己の体育観を引き出す—個体主義と関係主義
3. 体育観形成における問題点—「問題」のとらえ方
4. 学習指導要領(小学校体育科)の読み取り—カリキュラム—メーカーとしての教師
5. 子どもの体を育てるといふこと—相互主体論
6. 教材研究の視点—運動の中心のおもしろさ
7. 新しい視点に立った学習内容①—器械運動系
8. 新しい視点に立った学習内容②—ボール運動系
9. 新しい視点に立った学習内容③—陸上運動系
10. 新しい視点に立った学習内容④—水泳系
11. 新しい視点に立った学習内容⑤—表現運動系
12. 新しい視点に立った学習内容⑥—体づくり運動・保健
13. 教育実習生の授業観察(VTR)
14. 体育の単元計画
15. 自らの学びを振り返る

PBLを導入した意図・目的

本授業では、「学び(対話的实践に基づく自己形成)」を大切にしている。ここでいう「学び」とは、テーマとの対話、他者との対話、自己との対話の3つの対話的实践が一体となった一つの活動システムのことである。このシステムを機能させるためには、「学びの履歴カード」と「授業通信」の活用が欠かせないものとなっている。本稿では、その活用展開例について報告を行う。

内容

「学びの履歴カード」とは、本時の授業で提示されたテーマについて、450字程度で自己省察するカードであり、授業終了翌日までに提出が課せられているものである。記述内容は、単なる授業内容の記録や感想、意見ではなく、テーマについて再度調べ直し、考察し直し、自分ならどうするかという「自分自身を綴る」ことが強く求められる。なお、提出されたカードはすべて熟読し、問い質すようなコメントを入れるようにしている。

「授業通信」とは、「学びの履歴カード」に記述された内容を中心に編成したものである。テーマにおける「問題把握の深さ」と「自己の脱構築性」が認められる7名程度の記述を取り上げ、個人の思考を他者の思考と交流させ、それを全体の議論へと結びつけるための学習資源として位置づけている(次頁)。

